

## さあ、発表会ですよ！

第39回藤田佳代舞踊研究所発表会 10月15日（土）17：00～ 神戸文化大ホール

「届ける—東北の地震と津波と原発事故で亡くなった数限りない命たちへ」「鳥と花のおしゃべり」「神さま背負って」

出演 藤田佳代舞踊研究所研究生 拍踏衆

発表会を目前に迎えて、ますます練習に熱が入っています。佳代先生の、スズメとススキのお話はもうご存知だと思いますが、教師たちにも、心に残る鳥と花のおしゃべりの光景がありました。ご紹介します。

### 桜とスズメの思い出

鳥と花のおしゃべりで思い出すのは、満開の桜とスズメからのプレゼント。わあ、きれい！と、桜を見上げると、鳥がなにやら楽しそうに囀っていて、見上げるわたしの前に桜の花がふわふわと落ちてきました。花びらではなく、花です。それも一つ、二つなどではなく、次から次へと花が落ちてきます。くるくるとまわりながら、桜の花のパラシュートを背負って妖精たちが落下しているよう。次々に受け止めて持っていた袋に入れました。袋はたちまちいっぱい。ほんのり香る桜の香り。木の上にいたのは、スズメとヒヨドリ。どちらも桜の花の蜜を飲みたいと花をついばんでいたのですが、ヒヨドリは花を切らなくても蜜を飲めるのだそうで、たくさんのお花をプレゼントしてくれたのはスズメだったようです。 菊本千永

スズメとススキ、ヒヨドリとヤマモミジ、「鳥と花のおしゃべり」に登場する鳥と花はどれを取っても絶妙な取り合わせです。

私の体験した「鳥と花のおしゃべり」は、雉と竹（花ではないですが）です。竹林の側を歩いていると、微かなカサカサ、コソコソ、という音が。静まった、と思った途端、突然目の前に雉が飛び出してきて、お互い一瞬目が合い、動きが固まりました。ガサガサ、ザクザクと竹林の側を歩き、話しの邪魔をしてしまったのかもしれない。

私もカサカサ、コソコソとそうと行動してみたいものです。

かじのり子

子どもの頃に住んでいた家の庭の枝垂れ梅には毎春、必ずウグイスがきていました。枝垂れの枝に上手に乗って、ホーホケキョの練習にやってくるのです。春の初めはなかなか上手にホーホケキョと鳴くのが難しいらしく、ホーホーとなったリケキョケキョとなったり、なかなかホーホケキョとは鳴いてはくれません。私の父がウグイスの鳴き真似が得意で庭に来るとホーホーとしかなかなか鳴けないウグイスの子にホーホケキョと口笛を吹いて教えていたのが楽しい思い出です。

すっかり春になると、えらいものでホーホケキョと楽しそうに鳴けるようになっていきます。梅のピンクにグリーンのウグイスが美しく、ホーホケキョのBGMが楽しく、わが家の庭はとても華やいていました。嬉しいことに今住んでいる家でも、隣の大きな公園の小さな森にウグイスの巣があるので、春になるとウグイスのホーホケキョの練習を耳にすることができるよう。やっぱり、あの頃と変わらなく、ホーホーやらケキョケキョに始まって春爛漫の頃にはホーホケキョとなるんです。その練習が始まると私も、おっ！ようやく春が来た！と心浮き立つ思いです。 向井華奈子

花と鳥で思い出すのは、月並みですが、梅にウグイス。

一月下旬ころ、実家の庭の紅白の梅の木が花を咲かせると、六甲の山から見えていたのか、ウグイスがやってきて、花を啄みます。寒さの中に、春を感じるひとときです。

これは、花は関係ありませんが、先日見た鳥のおはなし。

ギャーツというこえの先を見ると、向かいのマンションのベランダの鉄柵に2羽のヒヨドリが。お互い睨み合って、一進一退を繰り返していました。ふと、目を移すと、一方のヒヨドリの後ろ側に少し小ぶりのヒヨドリが、この攻防を見つめています。あーあ、恋の三角関係かと思った瞬間、もう一方のヒヨドリの後ろにも一羽のヒヨドリが。鳥の世界も大変のようです。 寺井美津子

毎日通る駅前の花壇に、八重桜が一本だけ植えられています。とても小さな樹ですが、ソメイヨシノが咲く前に、ふっくらした少し濃いめの桜色の花を咲かせます。

そして直径1cmくらいの熟すととても甘くて美味しいさくらんぼが実ります！

毎年秘かに味わうのが、私の楽しみ！（このさくらんぼを食べる人を見たことがないし、段の上に登って写真撮ったりする人もいない）。

実がどんどん大きくなって赤くなった今年の4月末の朝、見るとスズメ、ヒヨ、メジロ？名前のわからない小さな鳥達が、何羽も枝に掴まって、にぎやかに嬉しそうにさえずりながらついばんでいます。

私は近づくのを諦めて、その日の夜、樹の前に行くと、一粒も無い！！見事にひとつ残らず葉っぱだけになっているではありませんか！

「あー！先に食べられちゃったさんねん！！」

鳥達は「たくさん実をつけて！！」花は「おいしい実をつけるからお腹いっぱい召し上がれ！」さくらんぼは「あまいでしょ」樹も葉っぱも虫も一年中いろんなお話をしているんだろうな！

「来年は一粒だけでいいから残しといてちょーだい！」とつぶやく私

金沢景子

「神さま背負って」の練習中にふと、考えたこと

10年以上前のことですが、近所にある公園と神社がきれいに整備されてしまいました。されてしまった、と思ってしまったのは、公園に雑然と植えられていた樹々や神社のうっそうとした森が好きだったからです。情緒がなくなってどこにでもある平凡な公演と神社になったようで、がっかりしました。かつては樹々の陰で公園は昼間でもどこことなく暗いかんじがしていて、わたしがもっと小さかったころには、年配の方なんかは「あの辺はちょっと怖いねえ…」と言っていたように思います。神社の森も昼間はまだいいのですが、夜に通り抜けようとして怖くて引き返したこともありました。整備された後は公園には日がさんさんとさしていますし、神社の森もすっきりとしたからでしょうか。夜の通り抜けも怖くなくなりました。整然として明るくなった。だから、それでいい、でしょうか。

今回の発表会の練習を通して感じたことは、子どもってやっぱり妖怪大好きだなんてことです。大人も子ども時代を必ず経験しているはずですので、やっぱり妖怪（に追随する不思議なものたち）好き。闇の世界。見えないけどきつとあるんだろなと思える世界。自分の知識や常識が通用しない世界。わたしには、整備される以前のうっそうとした公園や暗い神社の森が、その世界のほんの一部を可視化してくれていたのではないのかなと思えるのです。想像もつかない膨大な闇の世界の豊かさを思います。そして、その闇は人の心の闇を捨てることのできる唯一の場所なのではなかったのかとも考えます。

少しは怖そうな場所も残してほしい。犯罪がおきたらどうするの、と問われたらもちろん責任はとれないのですが、ではその怖い場所があったからこそ、おこらなかった犯罪があったかも、と想像する心の余裕も残しておきたいです。まあ、決して検証できることではないのですが、

目には見えないもの、常識では説明できないもの。世の中から消えないでほしい。

## がんばっています！　みに来てください。

寺井美津子モダンダンスリサイタルⅣ　　11月19日(土)　昼　15:00～　夜18:30～  
西宮市プレラホール

「国境線」「ジキルとハイドとわたし」「夜明けの詩」「寄りかからず」「われたらすゑは」「来る」

構成・演出・作舞　寺井美津子　藤田佳代（来る）

出演　金沢景子　菊本千永　かじのり子　向井華奈子　石井麻子　板垣祐三子　平岡愛理　田中文菜　菊原麻衣花

仲間くみ子　佐藤茉莉　木村はな　原田光琉　渡辺菜子　村上美羽　門家由采　新田小夏　石井希実　寺井美津子

私自身4回目となるリサイタルを開催させていただきます。場所は、一年前のホール抽選で1番くじを引き当てた、西宮市プレラホール（西宮北口南、芸術文化ホールの向かい）です。

今回は、私作舞の新作「国境線」をはじめ「ジキルとハイドと私」「夜明けの詩」「われたらすゑは」「寄りかからず」に加え、佳代先生の作品「来る」を上演します。

今回はじめてお目にかける作品「国境線」。

地図では、赤い線で表される国境線は、人を分け、対立させ、多くの悲しみを生みだしてきました。テレビで、国境線に張られた有刺鉄線を超えていくシリア難民の映像が映し出されていた頃、—国境線上に建つホテル・フランコ・スイス内のレストランでは、テーブルの真ん中をはしる国境線をはさんで、今日も、恋人たちが愛を語る—という紀行文を目にしました。こんなに柔らかに国境を越えて、愛を語り合う。この柔らかさが、きっと人類を救う。そんな思いで、創りました。

再演となる作品も、今の私が考えていることをプラスして、練り直しているところです。

ホールの収容人数が約290人とコンパクトなため、昼（15時開演）、夜（18時30分開演）の2回公演です。ご都合の良い時間に、お出かけいただければ、嬉しいです。

## 藤田佳代舞踊研究所の　ここが好き！～保護者編

ここが好き！を書いてくださいとお願いしたのが、二年半前。本当にたくさん書いてくださってありがとうございました。随分、時間がかかりましたが、これで皆さんが書いてくださったことをすべて掲載できました（一部文章を削ったり、個人の名前は出さないようにしました）。ありがとうございました。

レッスンを始めてまだ数回ですが、とても楽しいようです。毎日のように「今日はアン・ドゥ・トロワ行くの？」と聞いてきます。「先生はこうやってくるねん。」と言ったり、「ポーズ！」と言って動いたりしています。とてもかわいらしいです。

私自身がバレエを習っていて姿勢が良く、体の柔軟性もあり、よかったので娘にも習わせようと思いました。表現力が必要かと思い、佳代先生には表現を習えるので、よかったと思います。

先生が子どもの心にスーッと自然に入り、子どもの心によりそいながら、「おどるのはたのしい！」ということが一番に教えてくださって、子どもも踊るのが大好きになりました。お話がいつも楽しくて、子どもも「次はどんなお話？」と踊るのが楽しみなようです。クリスマス会の時などは、子どもの話も聞き入れて踊りを作り上げてくださり、子どもたちも自分が考えて踊る楽しさも知り、家でも創作ダンスしています。教室も、年上のお姉さんたちが、年下のめんどろを見てくれたり。一緒に遊んでくれたりして、とても仲良い教室です。レッスンの後もみんなでワイワイと遊んでいる仲間です。一人が壁なし逆立ちができれば、他の子も挑戦したりして、よいライバルにもなっているようです。

今年の発表会も、気仙沼市の児童養護施設、旭が丘学園の生徒さんをお招きしたかったのですが、先方のご都合によりきていただくことができませんでした。それでも、思い届け、と「届けろ」は必ず上演しますし、寄付もお送りしたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。